

17) 臨床検査部

1. 基本理念

杏林大学病院の診療の基盤を支えるべく、安全・正確・迅速に臨床検査を行う。

基本方針

① 患者さんの安全確保

生理検査や採血のために検査部にこられる患者さんに安全に検査を受けていただける様、環境を整えると同時に、検査担当者は患者の状況を適確に把握し安全面に配慮する様心がけます。

② 質の高い正確な業務の遂行

信頼できる質の高い検査結果を提供できる様、十分な品質管理（精度管理）を実施します。
そのための職員教育に組織的に取り組みます。

③ 迅速な対応

必要な検査を必要な時に提供できる様、また検査オーダーから報告までの時間を現状よりもさらに短縮できるよう努力します。

2. 組織および構成員

平成27年度の臨床検査部全体の組織構成は、以下の通りである。

なお、本年度は2名の臨床検査技師を採用した。

*臨床検査部役職者

渡邊検査部長 : 総括責任者
 高城技師長 : 管理運営・検査情報管理責任者
 関口副技師長 : 管理運営・技術管理責任者
 佐藤技師長補佐 : 生理検査部門責任者
 荒木技師長補佐 : 微生物・遺伝子検査部門責任者
 宮城技師長補佐 : 品質管理責任者
 小島技師長補佐 : 輸血部門責任者
 米山技師長補佐 : 採血部門責任者

各部署の構成（平成27年4月現在）

管理室：部長（医師）1，技師長1，副技師長1，検査助手1
 検査情報室：技師1 管理系 計5名

検体検査系：医師2，技師長補佐3，係長技師2，主任技師12，技師23，パート技師2
計44名

生理検査系：医師1，技師長補佐1，係長技師4，主任技師10，技師16，事務員2 計34名

外来検査室：技師長補佐1，係長技師1，主任技師1，技師2，パート技師2，事務員2
計9名

3. 特色と課題（臨床サービスの徹底）

① 外来採血業務

1) 外来採血室の運営改善

採血による合併症として神経損傷があるが、神経の走行は個人差が大きいため採血時の神経損傷の発生をゼロにすることは極めて困難とされている。臨床検査部では、採血手技の見直しや担当者の教育を通して、より安全な採血を行うように努めた。具体的には、本年度も前年度と同様、採血技術の向上を目指した部内勉強会・トレーニングを行った。また、患者急変時への対応訓練・ベッドならびに車椅子昇降等の患者対応訓練も継続して実施した。

2) 採血患者数増加への対応

採血患者数は、前年度の171,417人から177,440人に増加したが、前年度に行った緊急時用の採血スペースへの採血支援システム端末の増設により、通常の採血も行えるように整備したことで混雑時の待ち時間延長を抑えることができた。

② 検査の信頼性

臨床検査部では、検査の信頼性を確保するために委員会を設置している。インシデントならびに事故報告の分析と改善については、事故防止対策委員会が中心となって実施し、その効果は確実に上がっている。検査の精度保証については、精度管理委員会が分析装置ごとのコントロールデータの確認と、複数の分析装置でのデータの乖離状況を確認し是正と勧告を行い、信頼性の高い検査データを常に提供できるように努めた。また、全国規模の検査データ標準化事業にも参加し、地域の基幹病院として他施設の規範となる精度保証体制を維持している。

③ 臨床支援の拡充

臨床検査部では、検査の実施と報告という基幹業務に止まらず、臨床サイドに対する臨床支援態勢をより積極的に整えてゆくことも重要であると考えている。

1) 夜間・日直検査体制

臨床検査部では輸血業務や広範囲な緊急検査に対応するため、夜間・休日も検査技師を配置し、夜間勤務は3人、日直は日曜日4人、祝日5人体制で対応している。また、年末年始やゴールデンウィークなどの長期休業期間に輸血検査や至急血液像検査を含む検査業務の円滑化を図るべく、出勤人数の増員を以て対応した。

2) 輸血検査関連

本年度も安全な輸血に対する知識・技術を広く臨床に普及させるために輸血療法に関する啓蒙、教育活動の拡充などに取り組んだ。また、研修医や看護師の輸血に係る研修にも協力し、当院の安全な輸血のための基礎づくりにも貢献している。

また、輸血療法委員会による病棟ラウンドを実施し、医師、看護師、臨床検査技師による連携の確認と適正に輸血療法が行われていることの確認を行った。

3) 生理検査関連

生理機能検査室は心電図・呼吸・脳波・超音波が1つの検査室として統合されている。

これにより、生理検査業務の円滑な運営が可能となり、待ち時間短縮や安全確保など患者へのサービス・利便性が向上している。

4) 院内感染対策への参画

微生物検査室は院内感染防止のための情報発信の拠点であり、感染症発生状況の掌握、院内感染の防止という重要な任務を担っている。また、微生物検査室から医療安全管理部感染対策室に1名の技師を派遣し、院内感染対策チーム（ICT）の一員として活動している。

5) 遺伝子検査室の充実

遺伝子検査の分野は将来の遺伝子治療や再生医療において重要であるが、新たに購入した遺伝子検査機器により、さらに進んだ遺伝子検査を行うための体制を構築することができた。

4. 医療安全

臨床検査部では事故防止対策委員会を設置し、インシデントレポートの解析による業務改善や職員教育など定期的な活動を行っており、今年度もインシデント発生率を低い水準に抑えることができた。

5. 業務改善

昨年に引き続き、試薬・消耗品などの支出削減に努めるとともに、更に細部の見直し・点検を実施した。

6. 検査実績の推移

平成22～27年度の検査実績は表1に示すとおりである。

7. 年度目標と達成評価

【目標1】「検査の質」の向上

検体検査では、特に複数台で稼働している分析装置について、機器間における検査データに乖離がないことを精度管理委員会により常時監視することで検査データの精度保証の向上を図った。また、形態学的検査を行っている検査技師についても、検査者間での検査精度の標準化に取り組んでいる。

【目標2】ISO基準での業務管理体制の整備

昨年度に引き続き業務マニュアルと標準作業書の改訂については継続して行ったが、さらにISOの要求事項である「内部監査」と「マネジメントレビュー」を実施し業務改善に役立てた。

【目標3】検体検査について検体の検査室到着後60分以内の結果返却体制堅持

提出された検体の96%で60分以内に報告しているが、採血量の少ない検体では前処理に時間がかかってしまい60分を超えてしまうこともあった。

【目標4】外来採血室での待ち時間15分以内の体制堅持

平成27年度の外来採血件数は177,440件で、全患者の平均待ち時間は約7.4分であった。時間帯別では8時台が7.8分、9時台が9.9分、10時台が9.0分、11時台が6.2分であった。全体の90%は15分以内に採血を行ったが、月曜日に休日がある月の月曜日など、外来患者が集中する状況下で30分を超える時間帯がみられた。また、患者急変、採血困難者の連続、乳幼児患者などの対応により瞬時的に待ち時間が20分を超えることもあった。

【目標5】生理検査の予約待ち日数の短縮化

技師教育を充実させ、担当する業務範囲を広げることで予約待ち日数の短縮を図った。

【目標6】先進医療に即応した検査体制の整備

遺伝子検査では新しい分析装置を導入し、院内で測定可能な新たな検査項目の検討を開始した。また、これまでと同様に造血幹細胞移植への積極的な協力を図った。

表1 臨床検査件数

検査分野	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
生化学	3,770,396	3,845,715	3,891,892	4,047,513	4,183,666	4,424,435
免疫・血清	343,033	353,613	357,321	366,172	381,369	414,445
血液	662,898	672,676	680,676	699,871	714,531	753,769
一般	188,632	187,624	186,516	163,720	165,794	172,977
微生物	64,829	87,374	81,847	55,482	54,429	58,038
呼吸器	17,638	17,870	7,582	8,392	8,899	9,040
循環器	32,908	33,719	33,564	37,499	39,165	41,104
脳波	2,822	3,024	2,496	2,814	2,682	2,889
超音波	31,832	35,191	28,822	30,279	31,238	32,728
外来採血	149,741	156,409	161,080	166,150	169,296	177,440
輸血	55,585	57,465	57,369	56,712	56,435	57,568
末梢血幹細胞移植	12	35*	27*	17*	23*	31
院内検査合計	5,320,326	5,450,680	5,489,192	5,634,604	5,807,528	6,129,407
外注検査	189,386	177,756	171,597	182,711	177,126	195,399
総検査件数	5,509,712	5,628,436	5,660,789	5,817,315	5,984,654	6,324,806

注) 平成24年度より生理機能検査の集計方法が変更となりました。